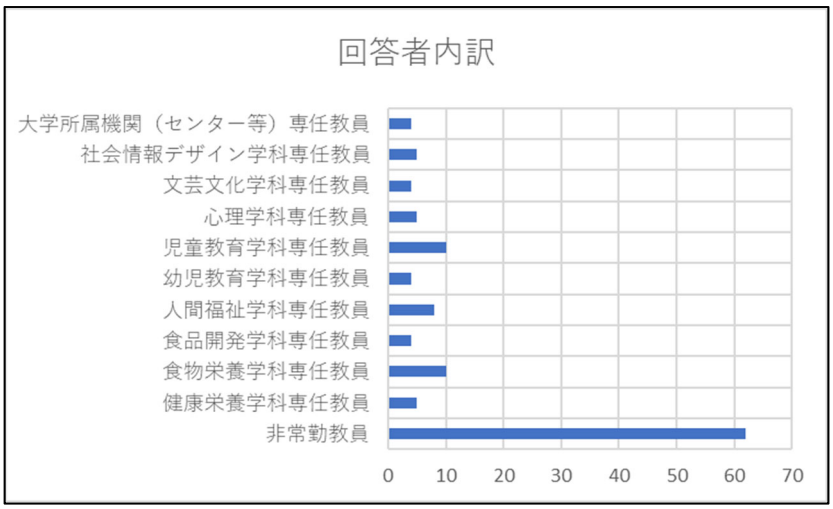
授業改善のための振り返りシート

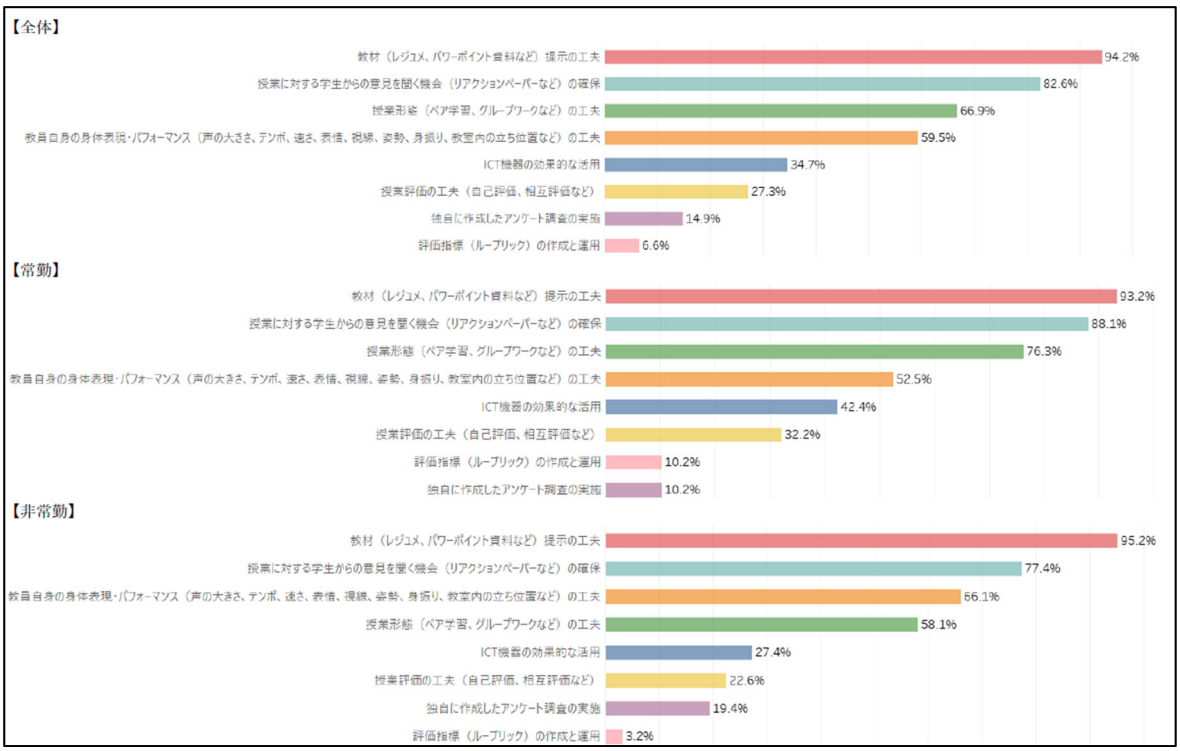
1．企画趣旨

本資料は、2023 年度トライアル的に実施した「授業改善のための振り返りシート」の回答を、分析、整理したものです。本シートの目的は、今年度の授業を振り返り、来年度の授業改善に向けた手掛かりを獲得すること、もしくは授業改善の行動を促すことを狙っています。教員相互の参考資料となれば幸いです。

2．回答状況について（回答者合計　121 人）



3．授業実施（学修内容・学修方法・フィードバック等）において、工夫した点について（入力必須　複数選択可）

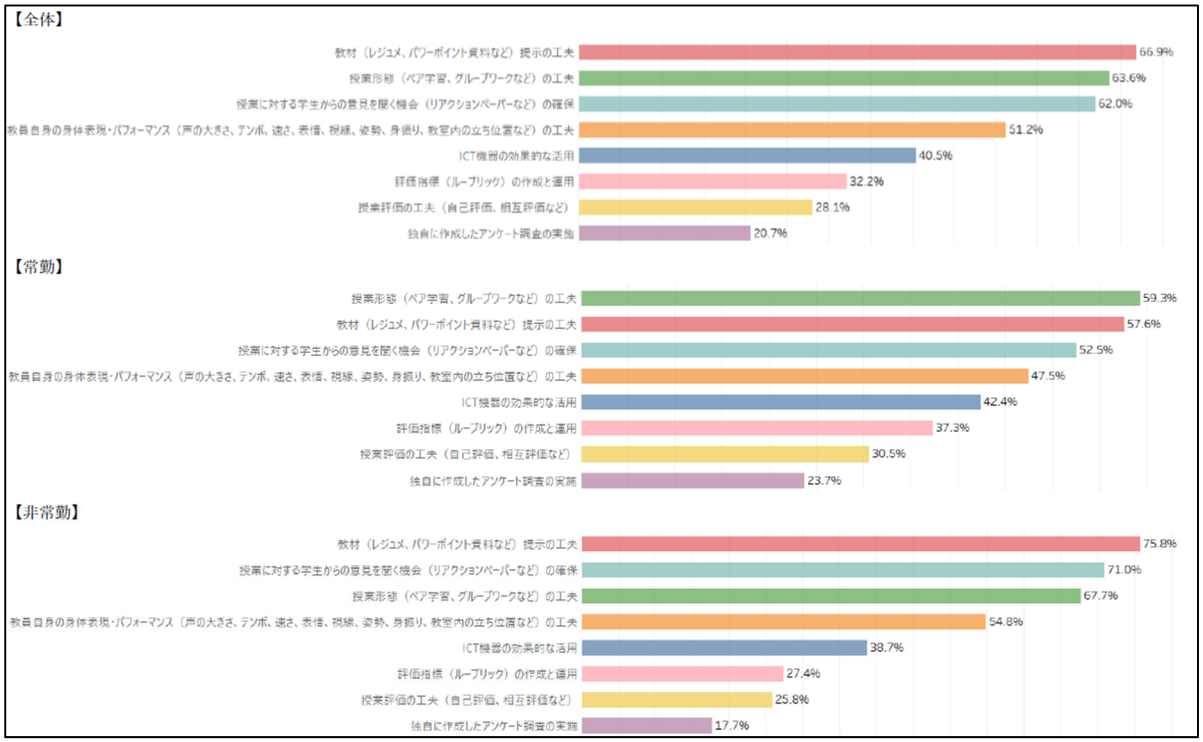


常勤、非常勤教員ともに「教材（レジュメ、パワーポイント資料など）提示の工夫」が 90%を超え、本学教員の授業実施については「教材提示」の工夫に力を傾注していると考えられます。具体的な教材提示の工夫や学修方法の工夫については、「学生に対し、興味をもってもらえるよう、様々なアイテムの提示や、PR 作成により多くの画像を紹介した」「発表方法にワールドカフェやギャラリートークなどの多様な方法の導入やフィールドワークなど、アクティブ・ラーニングを工夫」「ユニバーサルデザインの授業」などといった事例を先生方より紹介いただきました。

また、「オンデマンド型授業」「授業動画の事後公開」「Foams を使用した振り返り問題の実施」「授業外での質疑応答の個別対応、授業外用補足資料の作成」など、授業時間以外でも学生の学修する機会を提供するなど「学修のシームレス化」を意識し、学びが連続するような様々な工夫をされている事例も紹介いただきました。

このような教員による授業実施の様々な工夫は、学生の意識にも反映されており、「2023 年度授業改善のための学生による授業評価アンケート集計結果（全体）」においても、「配布資料・プリントが適切であった」(51.9%)、「説明の仕方が分かりやすい」(52.0%) と半数を超える好意的な回答が得られました。しかし、「映像視覚教材（パワーポイント等）の使用が効果的」を選択した学生は 34.5%であり、教員の意識とのズレも見られました。多くの教員が教材提示として使用している「パワーポイント資料」を、学生目線の視点から今後、工夫・改善が必要ではないかと考えられます。

4．来年度取り入れたい工夫（学修内容・活動・ツール等）（入力必須　複数選択可）



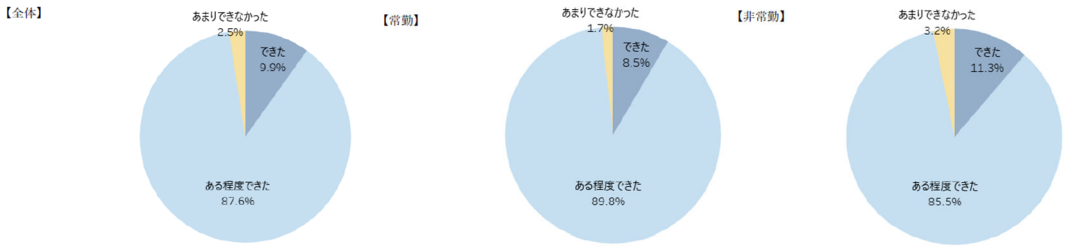
今年度の授業実施の成果と課題を踏まえ、来年度の授業改善の工夫についての回答では、常勤教員は「授業形態（ペア学習、グループワークなど）の工夫」(59.3%)、非常勤教員については「教材（レジュメ、パワーポイント資料など）提示の工夫」(75.8%）がそれぞれ上位 1 位となり、違う結果となりましたが、上位 3 つは常勤、非常勤教員ともに同様の項目でした。

授業改善の工夫として、「個別学修の充実、協働学修の工夫」といったご意見がありました。このことは、令和 3 年に中央教育審議会より出された「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、 協働的な学びの実現～（答申)」を受けてのご意見と推察されます。小中高等学校における学習者視点から整理された「個別最適な学び」の概念は、大学教育においても「供給者目線」から「学修者目線」への転換といった「教学マネジメント指針」（令和 2 年中央教育審議会大学分科会）の考え方と軌を一にします。

学修者本位の教育を実現するという観点からのご意見として、「学生の興味・関心を惹くような資料（実物）を見せる」といった学生の意欲を引き出し主体的な学修を大学が責任をもって実施することや「授業で得た知識を応用して創作する課題の実施」といった探究的な学びの視点からの授業改善に取組みたいといったご意見がありました。これらのご意見は、学生の学修観の転換、教員の授業観の転換の必要性を意識されているものと考えられます。

また、来年度取り入れたい工夫として「評価指標（ルーブリック）の作成と運用」が、常勤、非常勤教員ともに強く意識されていました（常勤教員 27.1 ポイント上昇、非常勤教員 24．2 ポイント上昇)。このことは大学教育の質の保証といった観点からも重要であり、学生の学修観の転換、教員の授業観の転換とも連動するものと考えられます。

５．今年度の授業実施において、シラバスにある到達目標を学生に身に付けさせることができたか（入力必須）＊選択

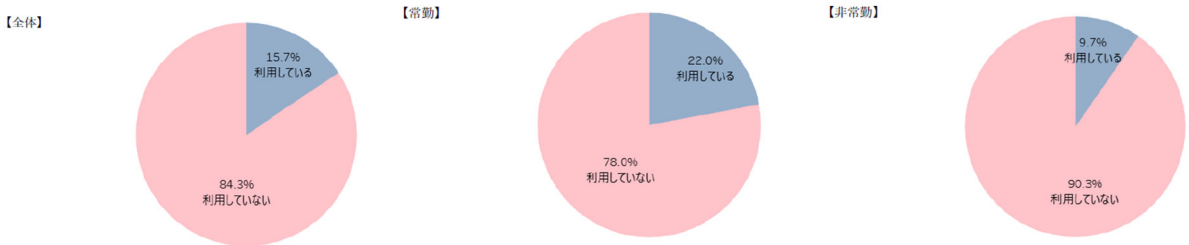


常勤、非常勤教員ともにほぼ 100%近く「できた」「ある程度できた」と回答しています。「2023 年度授業改善のための学生による授業評価アンケート集計結果（全体)」においても、シラバスにある到達目標の達成について、「とても感じることができた」(31.7%)、「多少感じることができた」(55.4%）と多くの学生が高い達成度を感じています。しかし、教員の意識と学生の意識にズレがみられることから、シラバスに示した、どのような力が学生一人一人に身に付いたのか、出口の質保証の観点から学生への説明がさらに必要ではないかと考えられます。

以下、「シラバスにある到達目標を学生に身に付けさせることができた」と回答した理由についての自由記述の一部を紹介します。

・授業の進行を柔軟にし、複数回にまたがって構成を工夫し、学生の学習理解の進捗状況をみながらシラバスの目標を達成できるように工夫したため。 ・学生の期末課題の内容からも、シラバスで提示した達成目標に到達している学生が十分にいる状況は把握できたため。
・テキスト内の課題に取り組み、気づいた点について意見を出し合う機会を毎回設けて授業を展開したが、後半の授業では、意見が多くでるようになり、書き言葉の留意点の理解が深まっていることが観察された。 ・授業のなかで取り組んだ成果物について、授業の後半のほうが完成度が上がっていることが観察された。（ホワイトボードに作成する課題についてなど）
・実技を中心とした授業なので、造形活動を楽しみ、自他の活動の良さに気付くことが出来ていた。 ・リアクションペーパーやレポートで、8 割以上の学生が学習課題のねらいを理解した表現ができていた。
・毎回の授業で行う確認ミニテストや模擬授業の充実の実際による ・毎回の授業後に提出する課題レポートの内容や感想の実際による
・DP との関連を図った振り返りシートを作成し、毎時間到達度を自己評価できるようにした。
・ミニテスト・レポートで理解度を確認した結果，おおむね目標到達したと判断した。
・リアクションペーパーで授業内容の理解や配慮の必要性を確認し、次の授業を工夫し、シラバス達成目標を意識して展開を心がけた。最終のペーパーテストで学修成果として平均点が確認され、ある程度できたと捉えています。
・応用栄養学に関する各テーマについてグループごとに調べて、考えをまとめ、プレゼンテーションを実施した。スライドにまとめる際、科学的根拠となるデータを用いて問題提議を行ってから、それぞれの取組みを紹介し、課題解決に対して自分たちの考えをまとめていたため。
・課題、レポート、テストの状況および、毎回の RP、アンケートの結果から、いずれの授業も大方の受講者は到達目標に十分達したと判断しました。
・学生によるリアクションペーパー、アンケート、自己評価の結果を総合的に集約して判断した。
・福祉行財政や福祉計画に関する知識の定着を図るため、講義中に過去問題を解くなど工夫を凝らしたため。

6．ルーブリックは利用されていますか。（入力必須）

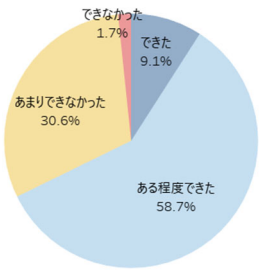


昨年度、一昨年度と、全学 FD 委員会主催による「ルーブリック講習会」を企画し、今年度は、昨年度実施した講習会の動画をオンデマンド形式で視聴できるようにしました。しかし、ルーブリックの利用率が、全体で 15.7%と低い状況となっています。ルーブリックを利用していない先生方のご意見では、「十分にルーブリックについて理解ができていないため、今後の課題としたい」や「趣旨や意義が理解できていないので」などがあり、研修会の周知が徹底していなかったと反省しています。一方、すでにルーブリックを利用されている先生方のご意見では、「学生自身が評価の基準がわかり、やる気につながったから良かった」や「評価の観点を自覚化できる。あいまいな点も含めて。但し常時改善が必要」などがありました。

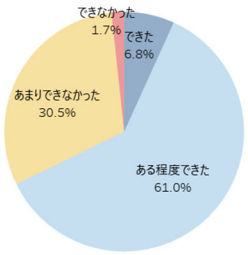
本学では、来年度よりシラバスにルーブリックを添付することになり、今後利用率は上がると思われますが、利用率を上げることが目的ではなく、ルーブリック利用のメリットについて、教員がしっかりと意識する必要があると考えます。ルーブリック利用のメリットとして、①学生との評価観の共有化、②評価の客観性、妥当性、明確性、③評価の効率化、等について大学問題研究会等を活用して研修し、理解を深めていく必要があると感じます。ルーブリックは、授業改善のための道具としての観点から、引き続き、ルーブリック活用について促進していくことが重要になるのではないかと考えられます。

7．授業時間外学修（事前学修、事後学修）を効果的に活用できたか。（入力必須）＊選択

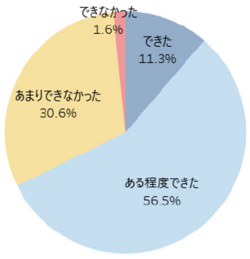
【全体】



【常勤】



【非常勤】



授業時間外学修については、全体で 32.3%の教員が「あまりできなかった」「できなかった」と回答しており、授業外学修の活用については高い状況ではないと考えられます。また、「2023 年度授業改善のための学生による授業評価アンケート集計結果（全体）」においても、「授業 1 回につき、平均してどれくらいの授業時間外学習（課題・宿題・予習・復習）をしていますか」の項目で、「1 時間未満（44.4%）」「全くしていない（27.6%）」と学生が回答しており、以下に示す「大学設置基準」が求める基準に比して十分とは言いきれない状況が確認できます。

（単位）
第二十一条　各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。
2　前項の単位数を定めるに当たつては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
一　講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。
二　実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもつて一単位とすることができる。
三　（略）

3　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

今後、先生方からいただいた以下のような「事前学修―授業―事後学修につながりを作る効果的な活動」を通して、授業外学修の充実を図ることが必要ではないかと思われます。

・UNIPA 小テスト機能を使用し、授業終了後に WEB 上の小テストを毎回実施した。小テストの実施については学生からの評価が高かった。
・オンデマンド動画視聴後に事前課題を課した。授業中の作業効率が高くなった。
・クリッカー機能やリアクションペーパーを用いて授業時間外学修が行われているかを問うような問いかけを行った。
・テキストの課題に事前に取り組みさせ、①そこで考えた意見を授業で発表し合う機会を設け、学生同士の学び合いができるように工夫した。②テーマを設定し、発表資料を事前に作成させ、授業でプレゼンする機会を設けた。③授業で出た意見や学んだ事柄を参考にして、自分の課題のブラッシュアップをする機会を設けた。
・科目によっては、教科書の事前学修の結果を授業前々日までに提出させ、理解のレベルや学生からの質問を念頭に、授業を行った。
・課題提出や実習前準備（オペレーションマニュアルの作成）、実習後の実習ノート作成および提出を行ったことにより、積極的な授業への取り組みや興味関心を持つ学生が多くなった。
・学習項目を事前に提示しており、事前学修はそれを確認することである程度で来たと考えます。事後学修については、翌週学習項目の確認をしていたので、ある程度できていたと考えます。
・講義資料の事前提供、オンデマンド型の自習教材などにより時間外学習を促す取り組みをした結果、それらを予習復習に役立てる学生が増え、質問も活発になったが、これらを全く活用せず、時間外学習時間 0 という学生も散見されるため。
・参考文献の提示，新聞記事の提示，レポート課題など。教室内の学びに限定されず，「現場」や「事実」を自ら捉える姿勢としての効果へ。
・事前では、毎回指定した範囲の感想文を書いてくる（読書入門ゼミナール）、課題に基づいて図案等を作成してくる（衣食住の文化）など、事後学修では小テストに向けて変体仮名を復習してくる（芸術を読みとる）などの活動を用い、書物の微細な読解に至る、古い文化を模倣して作成することで理解が深まる、繰り返し書くことで変体仮名の読解能力が身につくなどの効果があったと考えています。
・事前に調べてきてもらい発表してもらいました。効果としては、その場で調べるのよりもより本人が調べたい内容にフォーカスできた点、また、その時間分、他者の発表をきいて刺激を受ける時間に使えました。
・事前学修として教科書の予習を課題としたことで、授業をスムーズに進めることができた。リアクションペーパーを書くことで、事後学修として復習する際に各自が授業で学んだことを整理できたと考えます。

・事前学習を必然的に行うようにするため、毎回の授業で担当班を決め、テーマに基づいたプレゼン活動を実施した。このことにより、主体的・能動的に授業に臨むようになった。担当班以外の学生もルーブリックに示された「学習指導要領の理解」について、事前学習を行うようになった。
・次に取り扱うテーマを事前に話しそのことについて調べたり考えたりすることを求めた。その内容に関して、授業の冒頭で話してもらったりしたことから、授業時間外学修の指針を示すことができたと考える。
・授業で活動した様子を写真に撮り、ポートフォリオを作成する時間は、授業時間外となる。授業記録作成によって活動の良さや自分の気付きを振り返ることができる。
・授業内で実施時間が不足する制作や、授業後のリフレクションの記入を授業時間外学修に位置付けたことで、授業内で前回の振り返り―質疑応答―本日の目的の明確化（新しい知識のインプット）を循環することができたため、有効に活用できたと考えます。
・授業用 Instagram アカウントを利用し、授業時間外でも映像の撮影手法を学ぶ機会を作った。授業で学んだ技術を学生自身のスマホで手軽に実践できると共に、感性・表現力を養い、メディアリテラシーを身につける効果があると考えた。
・中間課題を含め、授業内容に応じた課題を出題し、回答を求めた（事後学習）。また、前回までの授業内容や他の関連科目での学びなど、必要に応じて予習となる学習を促した（事前学習）。このことにより、前回までの学習内容の定着および他科目を含めた関連情報の有機的な結合の一助となった。
・臨地実習においては事前学習のノートを作成させてから実習に行かせた。実習後の面談では学生自身に何が足りないのかが理解することができていた。

8．その他、FD 委員会が実施する授業改善に向けた取り組みについての要望。

「授業評価アンケート」のコメントの記入欄について、文字数の上限（全角 1000 文字？）をどこかに示しておいてほしい。コメントを依頼する学内メールの文中でも良いと思う。大学ごとに分量が違うので、昨年度は記憶違いで 1894 文字書いてしまい、確定しようとしたら「1000 文字まで」という表示が出て、締め切り日の夜だったため、書き直しが間に合わなかった（締め切りが延長されたので、最終的には記入できたが）。「これで意を尽くせただろう」と思って確定しようとした瞬間になって「文字数オーバー」と表示されるのは精神的にかなりダメージがあります。
いつもお世話になっております。授業改善に向けた取り組み、お疲れさまでございます。今回はトライアルとのことですが、本格的に導入される場合は、このように「個人を特定できる形式」で、「次年度に向けての改善」を「学生による授業評価に更に上乗せし」あえて実施される趣旨について、もう少し丁寧なご説明をいただけますと、ありがたく存じます。（たとえば、上記「ルーブリック」について、この先生はちゃんと活用できていないから、個別に説明の機会を設けるべき」というようなことなのでしょうか。回答にあたり、理解が不十分で申し訳ございません。）よろしくお願い致します。

パソコンやタブレットを活用した講義の最先端を知りたいです。
ルーブリックについて、学ぶ機会があればよろしくお願い致します。
ルーブリックは実技教科なら意味はあるが普通の科目では難しい。教職課程の教員はそれでもいいが、研究の方に力を注ぎたい教員には負担だけで意味なし。
ルーブリックを具体的にどう活用するのか、それをすることでどういう教育効果・成果が生まれるのか、具体的に講習会で説明してほしい。
公開授業期間が長く設定されていたため（報告書提出も含め)、ゆとりをもって授業改善に臨むことができました。特に本学科は、非常勤講師との交流会がないため、授業公開を通して学生の様子や授業の雰囲気を知る良い機会でした。非常勤の方との情報共有としても授業公開を活用することができたので、後期だけでなく、前期と後期の両方設定していただき、どちらかの期間に公開授業に参加する、としていただけるとありがたいです。
今の社会における学生理解について
授業出席回数と授業参加度について、学生一人一人への強い自覚を求めたい。
出席を番号入力の方法にしようとしたら､出席していない生徒が出席扱いになることがあった。
前期科目も授業公開科目の対象にしてほしいです。
他大学と比べ様々な取り組みをしていただき、感謝しています。
典型となる大学授業の公開、共有、大学授業研究会の実施等。
望ましい授業や学生からの評価の高かった授業を見あったり配慮している点を聞いたりする機会があると良い。大学問題研究会で発表と表彰を行ってはどうか。授業映像のダイジェストをホームページに掲載してはどうか。
本当にご苦労様です。貴重な提案、ありがとうございます。

以上